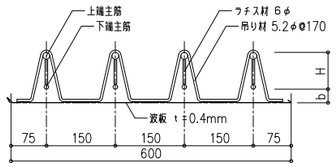
フェロー（プロト・エコ）デッキ標準図 （鉄筋トラス付捨て型枠床版工法）

（一財）日本建築総合試験所
（GBRC性能証明　第22-13号）

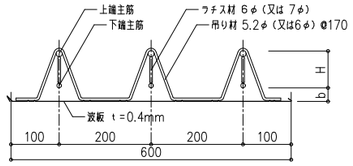
1．工法の概要

工場で捨型枠と床用鉄筋（主筋方向のみ）を一体化して生産された床構成材を現場にて梁間に敷き並べる。
その後、主筋連結筋及び配力筋を配置し、現場打ちコンクリートを打設して床版を構築する工法である。

2．断　面　図

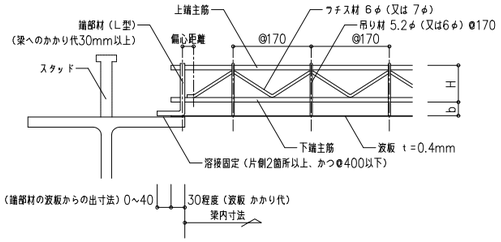


フェロー（プロト）デッキ　形状



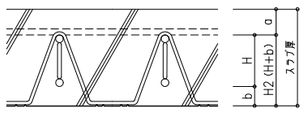
フェロー（エコ）デッキ　形状

3．標準納まり図



※ 端部材のかかり代は、梁へ30mm以上とする。
※ 波板と調整板のかかり代は、ノロ漏れ防止の為30mm程度とする。
※ 端部材とラチス材の偏心距離が30mmを超える場合は、端部の補強を行う。

タイプ表示　例）B 80 － 110 → H2（H＋b）
→ H
→ タイプ（上下弦材の組み合わせによる）



A，eA　：上 D10，下 D10
B，eB　：上 D13，下 D13
C，eC　：上 D13，下 D16
D，eD　：上 D16，下 D13
E，eE　：上 D16，下 D16
RD, ReD：上 D13，下 D16

4．種　　類

	上端主筋	下端主筋	ラチス材	吊り材	波板
Aタイプ	D10	D10	6φ（又は 7φ）	5.2φ（又は 6φ）	0.4mm（亜鉛メッキ鋼板 めっき量 Z12）
Bタイプ	D13	D13			
Cタイプ	D13	D10			
Dタイプ	D16	D13			
Eタイプ	D16	D16			
RDタイプ	D13	D16			
プロト	@150				
エコ	@200				

5．施工手順及び留意事項

（1）搬入・荷揚げ・仮置
・荷揚げは2点又は4点吊りとし、ハゼの保護に留意し、スリング（布帯）等にて荷揚げする。
・敷き込み方法に合わせて、ハゼ方向を確認し仮置きする。

（2）取　　付
・割付図の施工順序により、1枚目より順次取付する。
・ハゼが潰れている時は、ツノ等で修復し、確実にハゼかけを行う。
・デッキの固定方法は、S造の場合端部材をアーク溶接にて梁に固定し、固定位置は幅方向については1枚（600幅）に対し片側2ヶ所以上、かつ400mm以下とする。
・柱廻り・梁斜め部は、波板・鉄筋を切断し、端部材（L型筋）を復旧する。復旧の際に端部材とラチス材の端部の偏心距離が30mmを越える場合は端部の補強を行う。
・幅方向の調整は、カット製品、又は調整板にて行う。
・囲仕切壁等のある場合は、波板のみ切断する。

（3）梁上の上端主筋連結（定着）筋
・重ね継手長さは Ｌ1以上、定着長さは Ｌ2以上 とする。

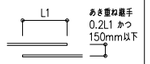
（4）上端配力筋の施工
・重ね継手長さは Ｌ1以上、定着長さは Ｌ2以上 とする。
・結束は600mm以下を標準とする。

（5）施工時の注意
・鉄筋・ラチス材・吊り材を一体化したデッキは、施工時支保工の役目を持つ構造材であるため、部材の切断は行わないこと。設備・配管工事のためコンクリート打設前に切断の必要がある時は、支保工等の補強を行う。
・開口部は、大きさにより定められた補強方法で開口補強を行う。
・仮設時許容スパンを超える場合、及びデッキ部材を切断する場合は、仮設サポートを設ける。

（6）直線重ね継手長さ・定着長さ（普通コンクリートの場合）

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度	重ね継手長さ（L1）	定着長さ（L2）
SD295	18	45d	40d
	21	40d	35d
	24～27	35d	30d
	30～36		
	39～45	30d	25d
	48～60		

あき重ね継手について



※）あき重ね継手長さ（L1）
プロトタイプ　L1 ≧ 375mm
エコタイプ　L1 ≧ 500mm

※本物件の設計図書（構造標準図・仕様書等）が上表と異なる場合は、本物件の仕様を優先する。

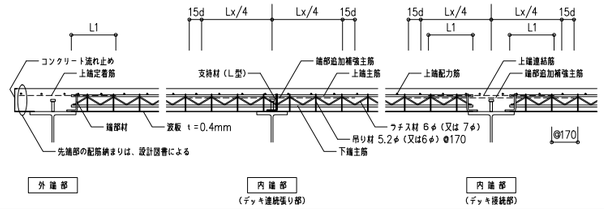
標準納まり図　＜ S 造 ＞　（ 1方向 ）

＜お問合せ先＞　TEL ： 03-3580-2551
（株）東京富士昭　FAX ： 03-3580-2552

2023年 8月10日 改定

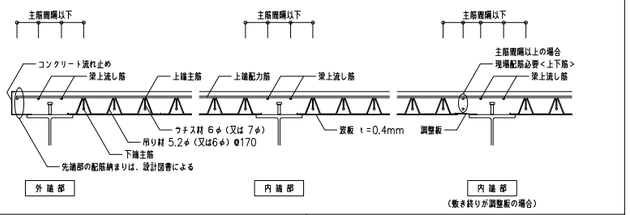
主筋方向納まり図

※頭付きスタッドの仕様は、設計図書による。



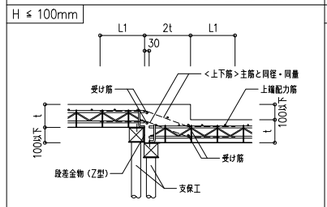
配力筋方向納まり図

※頭付きスタッドの仕様は、設計図書による。



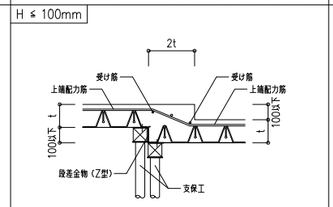
スラブ中間部　主筋方向段差納まり図（参考例）

H ≦ 100mm

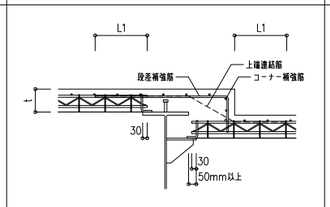


スラブ中間部　配力筋方向段差納まり図（参考例）

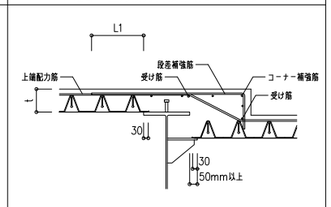
H ≦ 100mm



スラブ端部　主筋方向段差納まり図（参考例）

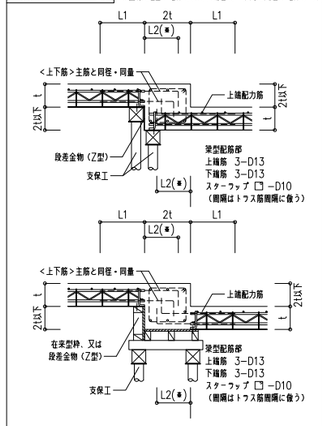


スラブ端部　配力筋方向段差納まり図（参考例）



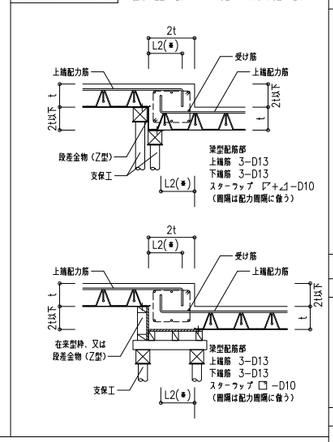
100mm＜ H ≦ 2t

※直線でL2を確保できない場合は、梁内で定着を確保する。

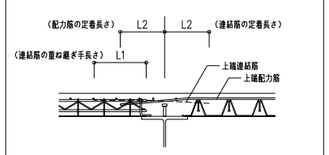


100mm＜ H ≦ 2t

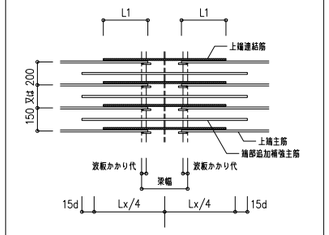
※直線でL2を確保できない場合は、梁内で定着を確保する。



異方向納まり図

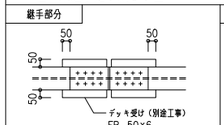


連結筋及び追加補強主筋納まり図

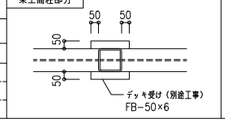


柱・梁継手廻り納まり図

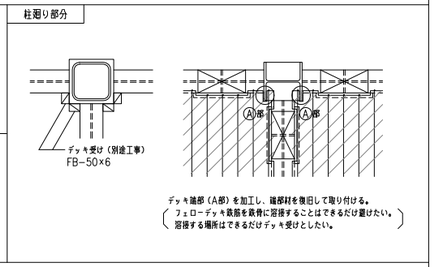
継手部分



梁上周柱部分



柱廻り部分



デッキ端部（A部）を加工し、端部材を復旧して取り付ける。
（フェローデッキ鉄筋を鉄骨に溶接することはできるだけ避けたい。
溶接する場所はできるだけデッキ受けとしたい。）

サポートを設置する場合の注意事項

段差増打ちのある場合、施工荷重と吊り材と波板の溶接耐力を比較し、サポートによる補強方法が異なります。

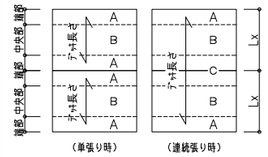
1．溶接耐力が施工荷重未満の場合	トラスと直交方向に必要数を配置する。
2．溶接耐力が施工荷重以上の場合	溶接耐力が不足する範囲をベニヤ型枠などを介し、波板面全体を支えるように補強する。

フェロー（プロト・エコ）デッキ　スラブリスト

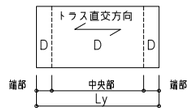
符号	スラブ厚（増打厚）	デッキタイプ	位置	トラス方向〈短辺方向〉 製品	連結筋・定着筋（現場配筋）	追加補強主筋（現場配筋） 端部 デッキ接続部〈A 範囲〉	連続張り時梁上部〈C 範囲〉	中央部〈B 範囲〉	トラス直交方向〈長辺方向〉（現場配筋） 端部〈D 範囲〉	中央部〈D 範囲〉
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							
			上端筋							
			下端筋							

配筋位置案内図

トラス方向〈短辺方向〉



トラス直交方向〈長辺方向〉



備　考

特記事項

開口補強（現場配筋）

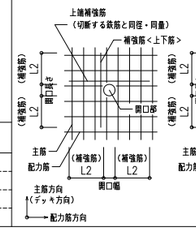
※鉄筋を切断した際の小口補強方法は、監理者と協議のこと。

開口幅 ≦ 200mm

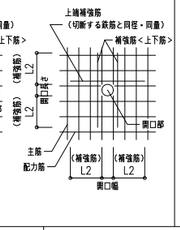
補強を行わない開口

補強を行う開口

・開口により切断された鉄筋が主筋1本、配力筋1本の場合



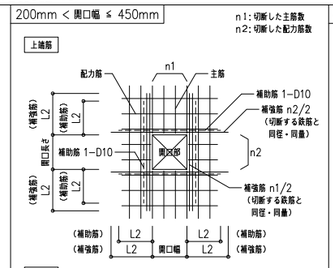
・開口により切断された鉄筋が主筋2本、配力筋1本の場合



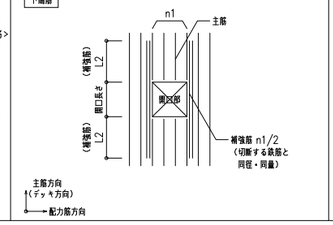
200mm ＜ 開口幅 ≦ 450mm

n1：切断した主筋数
n2：切断した配力筋数

上端筋



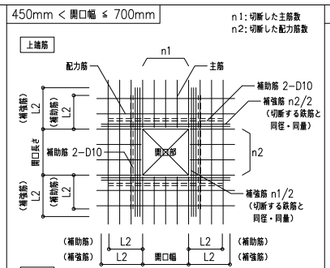
下端筋



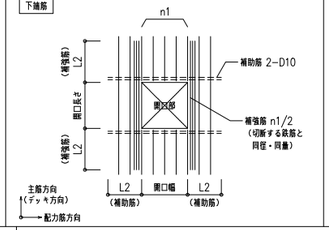
450mm ＜ 開口幅 ≦ 700mm

n1：切断した主筋数
n2：切断した配力筋数

上端筋



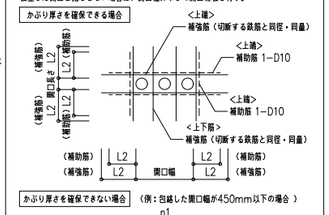
下端筋



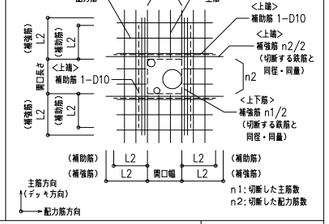
連続する開口の補強

・複数の開口が隣接してもかぶり厚さを確保できる場合は、独立した開口と見なす。
独立した開口と見なせない場合は、開口幅に準じて開口補強を行う。

かぶり厚さを確保できる場合



かぶり厚さを確保できない場合　（例：包囲した開口幅が450mm以下の場合 ）



設計・監理

株式会社 東京富士昭

工事名称	工事名称
図面名称	フェロー（プロト・エコ）デッキ標準図
縮尺	1：5 1：20
図番	1